

International Seminar on Asset Management Implementation in Asian Countries

アジア諸国におけるアセットマネジメント実務に関する国際セミナー

- 代表者：小林潔司（京都大学大学院工学研究科・教授）
 - 日時：2009年2月23日—2009年2月24日
 - 場所：マレーシア，クアラルンプール，Seri Pacific Hotel
 - 主催：京都大学（Japan），International Islamic University of Malaysia (Malaysia)，GCOE Program of Kyoto University (Global Center for Education and Research on Human Security Engineering for Asian Megacities)(Japan)，日本学術振興会（Japan）
 - 共催：国際協力機構（Japan），Public Works Department Malaysia (Malaysia)
-
- 主な参加機関：京都大学（Japan），大阪大学（Japan），International Islamic University of Malaysia (Malaysia)，National University of Singapore (Singapore)，Chulalongkorn University (Thailand)，National Institute of Technology Karnataka (India)，Hanbat University(Korea)，Bandung Institute of Technology(Indonesia)，University of Transport and Communications (Vietnam)，国際協力機構（Japan），アジア開発銀行，Public Works Department Malaysia (Malaysia)，Vietnam Road Authority（Vietnam）

• シンポジウムの目的概要

インフラ資産を適切に維持管理を履行していく上で直面している問題は、行政システムや市場環境、物的・人的資源等、アジア各国で異なる。本セミナーでは、アジア各国で行われているアセットマネジメントの実施体制について情報を共有し、各国の現状に応じたアセットマネジメントのためのガバナンスのあり方について模索する。

• シンポジウムの様子、得られた成果

本セミナーでは、アジア 10 数カ国から約 150 名のアセットマネジメントにかかわる研究者、実務者が集まり、アジア諸国におけるアセットマネジメントのあり方について議論が行われた。マレーシア、韓国、シンガポール、インド、インドネシア、タイ、Solomon Islands、ベトナム、日本などの国の大学、政府、民間機構から 15 人の発表者が研究発表を行った。

本セミナーでは、2 日間にわたり、アジア諸国のアセットマネジメントをテーマに、アセットマネジメントのスキーム、マネジメント組織、モニタリングシステム、データベースのマネジメント、実務者の教育、技術の革新及び協力などさまざまな角度からアセ

ースのマネジメント，実務者の教育，技術の革新及び協力などさまざまな角度からアセットマネジメントの現状に関する研究発表及び討論が繰り広げられた。その結果，世界19カ国（下図参照）のアセットマネジメントに関する実際の事例について分析を行うことができた。また本セミナーの発表論文は「Proceedings of International Seminar on Asset Management Implementation In Asian Countries」に収録された。来年度はベトナム・ハノイにおいて第2回セミナーの開催を予定している。



